

【A年】

大斎節第五主日

全能の神よ、主イエス・キリストは大祭司として来られ、その血をもって至聖所に入り、ただ一たび永遠の贖いを全うされました。どうかご自身を神に献げられたキリストの血によって、わたしたちの良心を死に至る行いから清め、あなたに仕えさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書はエゼキエル書第三十七章一節から」

1 主の手がわたしのの上に臨んだ。わたしは主の霊によって連れ出され、ある谷の真ん中に降ろされた。そこは骨でいっぱいであった。2 主はわたしに、その周囲を行き巡らせた。見ると、谷の上には非常に多くの骨があり、また見ると、それ

らは甚だしく枯れていた。3 そのとき、主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」わたしは答えた。「主なる神よ、あなたのみがご存じです。」11 主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。彼らは言っている。『我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる』と。12 それゆえ、預言して彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはお前たちの墓を開く。わが民よ、わたしはお前たちを墓から引き上げ、イスラエルの地へ連れて行く。13 わたしが墓を開いて、お前たちを墓から引き上げるとき、わが民よ、お前たちはわたしの主であることを知ることになる。14 また、わたしがお前たちの中に霊を吹き込め、お前たちは生きる。わたしはお前たちを自分の土地に住まわせる。そのとき、お前たちは主であるわたしがこれを語り、行ったことを知ることになる」と主は言われる。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、「一節ずつ交互に唱える。」

第一三〇編

1 主よ、深い淵からあなたに叫び＝嘆き祈るわたしの声

- を聞いてください
- 2 主よ、あなたが目を留められるなら＝ 主よ、だれがあなたの前に立ちえよう
- 3 しかし、あなたの赦しのために＝ 人はあなたを畏れかしこむ
- 4 わたしは主を待ち望む、わたしの魂は待ち望む＝ わたしはみ言葉に寄り頼む
- 5 夜回りが 暁を待ち望むにもまして＝ わたしの魂は主を待ち望む
- 6 イスラエルよ、主に寄り頼め＝ 主は豊かな贖いに満ち、慈しみ深い
- 7 神は、すべての罪から＝ イスラエルを救われる

## 使徒書

朗読者 「使徒書はローマの信徒への手紙第六章十六節から」

16 知らないのですか。あなたがたは、だれかに奴隷として従えば、その従っている人の奴隷となる。つまり、あなたがたは罪に仕える奴隷となって死に至るか、神に従順に仕える奴隷となって義に至るか、どちらかなのです。17 しかし、神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、今は伝えられた教えの規範を受け入れ、それに心から従うようになります。18 罪から解放され、義に仕えるようになります

た。19 あなたがたの肉の弱さを考慮して、分かりやすく説明しているのです。かつて自分の五体を汚れと不法の奴隷として、不法の中に生きていたように、今これを義の奴隷として獻げて、聖なる生活を送りなさい。20 あなたがたは、罪の奴隷であったときは、義に対しては自由の身でした。21 では、そのころ、どんな実りがありましたか。あなたがたが今では恥ずかしいと思うものです。それらの行き着くところは、死にほかならない。22 あなたがたは、今は罪から解放されて神の奴隷となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは、永遠の命です。23 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。  
ここで聖歌を歌う。

## 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第十一章十七節以下に記さ

会衆 かいしゅう 「主に栄光がありますように」 しゅにえいこう

17 さて、イエスが行って御覧になると、ラザロは墓に葬られて既に四日もたつていた。18 ベタニアはエルサレムに近く、十五スタディオンのほどのところにあつた。19 マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人が、兄弟ラザロのことで慰めに来ていた。20 マルタは、イエスが来られたと聞いて、迎へに行つたが、マリアは家の中に座つていた。21 マルタはイエスに言った。「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしよ。22 しかし、あなたが神にお願いになることは何でも神はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。」23 イエスが、「あなたの兄弟は復活する」と言われると、24 マルタは、「終わりの日の復活の時に復活することは存じております」と言つた。25 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。26 生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」27 マルタは言つた。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」

28 マルタは、こう言つてから、家に帰つて姉妹のマリアを呼び、「先生がいらして、あなたをお呼びです」と耳打ちした。29 マリアはこれを聞くと、すぐに立ち上がり、イエスのもとに行つた。30 イエスはまだ村には入らず、マルタが出迎

えた場所におられた。31 家の中でマリアと一緒にいて、慰めていたユダヤ人たちは、彼女が急に立ち上がつて出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだらうと思ひ、後を追つた。32 マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしよ。」と言つた。33 イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、34 言われた。「どこに葬つたのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と言つた。35 イエスは涙を流された。36 ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言つた。37 しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようにはできなかったのか」と言う者もいた。

38 イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に來られた。墓は洞穴で、石でふさがれていた。39 イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたつていますから、もうにおいます」と言つた。40 イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言つておいたではないか」と言われた。41 人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださつて感謝します。42 わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになつたことを、彼らに信じさせ

るためです。」43 こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。44 すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどこいてやって、行かせなさい」と言われた。

司祭 「主に感謝」  
会衆 「主に感謝します」